

令和5年度

青森県ソフトボール協会

審判員伝達講習会

《資料》

令和5年3月26日

青森県 青森市

2023 ルール改正点

2022 年版掲載頁→P 9～10 2023 年版掲載頁→P11～12

1-2 項 アピールプレイ APPEAL PLAY とは、審判員が監督、コーチ・プレイヤーに要求されるまで判定をすることができないプレイで、正しい投球、不正投球にかかわらず次の投球動作に入る前になされなければならない。

また、イニングの終了のときは守備者全員がフェア地域を離れるか、審判員が試合終了の宣告をする前にしなければならないプレイをいう。

なお、監督やコーチによるボールデッド中のアピールは、競技場内(ベンチを含まない)に入った後にしかできない。

【例外】無通告交代、再出場違反、DP 違反、代替プレイヤー違反のアピール権は、当該プレイヤーが交代するまで継続され、消滅することはない。

アピールプレイは次の **9つの場合** である。

- (1)走者が塁を空過したとき。
- (2)飛球に対して走者の離塁が早過ぎたとき。
- (3)打順誤りがあったとき。
- (4)打者走者が一塁通過後に二塁へ向かおうとしたとき。
- (5)無通告交代したとき。
- (6)代替プレイヤー違反があったとき。
- (7)再出場違反があったとき。
- (8)DP 違反があったとき。
- (9)タイブレークの走者にルール違反があったとき。

※改正理由

2022 の国際ルールの改正に伴い、タイブレークの走者にルール違反（本来タイブレークの走者になるべき選手が走者として出場しなかった場合）があった場合は、「アピールプレイ」の対象となったことから、国際ルールに合わせ、改正を行った。

2022 年版掲載頁→P19 2023 年版掲載頁→P21

1-51 項 オプション OPTION（選択権）とは、守備側の不正行為により攻撃側の監督に与えられる権利で、次の場合は選択権となる。

1. 無通告交代したプレイヤーが守備でプレイしたとき。

2. 不正投手が投球した球を打者が打ったとき。
3. 打者が不正投球を打ったとき。
4. 捕手や他の野手が打撃妨害をしたとき。
5. 野手が不正用具でプレイしたとき。
6. 再出場違反したプレイヤーが守備でプレイしたとき。

※改正理由

打撃妨害は「捕手」だけでなく、「他の野手」によって引き起こされる場合もある。現行ルール「6-4項 守備位置」3.に「三塁走者がスクイズプレイまたはホームスチールを試みたとき、捕手または他の野手が本塁を踏んだり、その前に立ったり、打者やバットに触れ、打撃を妨害してはならない」と明記されていることから、上記4.の「捕手」の後に「や他の野手」の文言を入れ、整合性を図った。

2022年版掲載頁→P22 2023年版掲載頁→P24

1-69項 テンポラリーランナー TEMPORARY RUNNER とは、**投手**・捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、**投手**・捕手が出塁し、走者となつたとき、**投手**・捕手の代わりに走者となる選手のことである。テンポラリーランナーと交代させるかどうかは、攻撃側チームの選択である。

テンポラリーランナーは、塁上の走者以外の選手で、打順が最後に回ってくる者とする。

※国際ルールでは、タイブレークの走者と同様に「テンポラリーランナーにルール違反があった場合(テンポラリーランナーの使用を間違った場合)は、アピールプレイの対象となる」とルール改正されている。

※改正理由

国際ルールでは、すでに「捕手」だけでなく、「投手」にもテンポラリーランナーの使用が認められている。また、国際ルールではタイブレークの走者のルール違反と同様に、テンポラリーランナーのルール違反もアピールプレイの対象となり、ペナルティが課されるが、JSAルールにおいては、捕手のテンポラリーランナーについても「ノーペナルティ」で実施してきた経緯もあり、また、本年度はルール改正の周知徹底を図る中央研修会もないことから、すぐにアピールプレイの対象とし、ペナルティを課すのではなく、このルールの運用に慣れ、定着するまでの「猶予期間」を設けて対応し、適用・運用に時間をかけるべきと判断した。

ただし、国際ルールではすでにアピールプレイの対象で、違反に際してはペナルティが課されるルール改正が行われていることを※印以下に「参考」として追記することで、ルールへの理解を促し、近い将来の全面実施に備える形を取りたいと考えている。

2022年版掲載頁→P40～P41 2023年版掲載頁→P42～P43

3-7項 ユニフォーム

4.アンダーシャツ

(1)プレイヤーのアンダーシャツは同色でなければならない。すべてのプレイヤーがアンダーシャツを着用することは必須ではないが、一人でもアンダーシャツを着用する場合は、他のプレイヤーは同色のものを着用しなければならない。また、どのプレイヤーも、露出したアンダーシャツの袖がほつれ、擦り切れたり、スリットが入ったものを着用してはならない。

(2)アームスリーブ(腕の保護ガード)を着用する場合は、アンダーシャツの着用と同様のルールを適用し、**片腕または両腕にアンダーシャツと同色のものを着用しなければならない。**

(注)片腕のみの使用は禁止する←(注)は削除

※改正理由

こちらも国際ルールがすでにそのような形で改正されていることから、国際ルールの改正内容に合わせ、アームスリーブの片腕のみの使用も認めることを明記し、ルール改正を行った。

2022年版掲載頁→P49 2023年版掲載頁→P51

4-8項 プレイヤーのマナー

3.攻撃側のチームメンバーは、試合中いかなるときも、故意に打者席のラインを消してはならない。

〈効果〉3

(1)ボールデッド。

(2)打者に対してワンストライクが宣告される。

(注)次の打者が打席に入る前や選手交代時に、監督・コーチや攻撃側のメンバーがラインを消した場合には、次の打順のプレイヤーに対してワンストライクが宣告される。

※国際ルールでは「守備側の監督・コーチや守備側のメンバーがラインを消した場合は、当該打者か、次の打者が打席に入る前や選手交代時の場合は、次の打順のプレイヤーに対してワンボールが宣告される」とルール改正されている。

※改正理由

国際ルールでは「攻撃側」だけでなく、「守備側」も「試合中いかなるときも、故意に打者席のラインを消してはならない」とルール改正されていることから、参考までに国際ルールでの取り扱いを例示した。

2022年版掲載頁→P51～P52 2023年版掲載頁→P54

4-11 項 テンポラリーランナー

投手・捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、**投手・捕手**が出塁し、走者となったとき、**投手・捕手**の代わりにテンポラリーランナーを使用することができます。

- (1)テンポラリーランナーと交代させるかどうかは、攻撃側チームの選択である。
 - (2)二死後であれば、いかなる時点でもテンポラリーランナーを使用することができる。
 - (3)テンポラリーランナーを使用するときは、塁上の走者以外の選手で、打順が最後に回ってくる者をテンポラリーランナーとする。
- (注)テンポラリーランナーに間違った選手が出た場合には、正しい選手と交代させる。(それに対するペナルティはない)

※国際ルールでは、タイブレークの走者と同様に「テンポラリーランナーにルール違反があった場合（テンポラリーランナーの使用を間違った場合）は、アピールプレイの対象となる」とルール改正されている。

※改正理由

1-69項と同様の理由でルール改正を行い、参考として国際ルールの取り扱いについて※以下に明記した。

2022年版掲載頁→P55 2023年版掲載頁→P57～P58

5-6 項 タイブレーク

8回の表から無死・走者二塁を設定して攻撃を継続する。二塁走者は前の回の最後に打撃を完了した者とし、打者は前回から引き続く正位打者(正しい打順の打者)とする。

〈効果〉

タイブレークの走者にルール違反があった場合（本来タイブレークの走者になるべき選手が走者として出場しなかった場合）は、

- (1)アピールプレイ

(2)違反した走者がアウト

守備側のアピールは、違反した走者が塁上にいる間に行わなければならない。守備側がアピールする前に、攻撃側が正しい選手に走者を交代させた場合は、ペナルティはない。

※改正理由

国際ルールはすでに上記内容にルール改正されており、タイブレークの走者にルール違反があった場合には、アピールプレイの対象となり、〈効果〉の通りのペナルティを課す。

2022年版掲載頁→P62 2023年版掲載頁→P64

6-5項 異物の使用

- 1.守備側のメンバーは、試合中は球にいかなる異物もつけることは許されない。ただし、審判員により事前に確認されたロジンのみ使用することができる。
- 2.投球する手の指にテープを巻いたり、手首や前腕部に汗とりバンド(リストバンド)、腕輪、またはこれに類するものを着用してはならない。

(注)アームスリーブは、3-7項4に規定されたアンダーシャツとみなし、片腕または両腕に着用し、アンダーシャツと同色であることを条件として着用することができる。

※改正理由

これも3-7項4の修正に伴うものであり、国際ルールの改正内容に合わせたルール改正である。

2022年版掲載頁→P72 2023年版掲載頁→P74

7-3項 打撃姿勢

- 3.打者は、試合中いかなるときも、故意に打者席のラインを消してはならない。

〈効果〉3

- (1)ボールデッド。:
- (2)打者に対してワンストライクが宣告される。

(注)次の打者が打席に入る前や選手交代時に、監督・コーチや攻撃側のメンバーがラインを消した場合には、次の打順のプレイヤーに対してワンストライクが宣告される。

※国際ルールでは「守備側の監督・コーチや守備側のメンバーがラインを消した場合は、当該打者か、次の打者が打席に入る前や選手交代時の場合は、次の打順のプレイヤーに対してワンボールが宣告される」とルール改正されている。

※改正理由

国際ルールでは「攻撃側」だけでなく、「守備側」も「試合中いかなるときも、故意に打者席のラインを消してはならない」とルール改正されていることから、参考までに国際ルールでの取り扱いを例示した。

2022年版掲載頁→P87 2023年版掲載頁→P89

8-3項6 進塁と逆走塁

6. 墓を空過したり、**飛球の捕球よりも**タッチアップが早過ぎたりして、アウトになった前位の走者は、正しい順序で墓に触れている後位の走者の資格に影響を与えない。

※改正理由

タッチアップとは、1-67項 タッキングアップ TAGGING UP (タッチアップ) に定義されている通り、飛球に野手が触れた直後、走者が進塁するためにスタートを起こすことであり、必ずしも「捕球」する必要はない（野手が捕球できなかった、落球したといったケースでも、野手が球に触れた直後にはスタートできるため、このルール条文の表現は適切ではない。そのため、「飛球を捕球しなければタッチアップできない」と、誤解を招きかねない「飛球の捕球よりも」の文言を削除し、単純に「タッチアップが早過ぎたりして」の表現のみとする文章整理を行った。

2022年版掲載頁→P96 2023年版掲載頁→P98

8-6項7 走者がアウトになる場合

7. **ポールインプレイ中、ポールデッド中にかかわらず、**他の走者以外の者が走者の身体に触れ、走塁を援助したとき。

※改正理由

このルールの〈効果〉7~8文中に、「ポールインプレイ中、ポールデッド中にかかわらず」と同一の文言・表現があるため、ルール条文中の「ポールインプレイ中、ポールデッド中にかかわらず」を削除する。ルールの内容自体、解釈等の変更はない。

2022 年度版掲載頁→P108 2023 年版掲載校→P110

10-1 項 権限と義務

13. 審判員は、ルールに従って打者または走者をアウトにする場合は、アピールを待たないで決定できる。

(注) 審判員は、走者の空過、飛球に対して走者の離塁が早過ぎたとき、打順誤りがあったとき、打者走者が一塁通過後に二塁に向かおうとしたとき、無通告交代(不正交代したとき)、代替プレイヤー違反があったとき、再出場違反したとき、D P違反があったとき、**タ
イブレークの走者にルール違反があったときは**、アピールがあってから適切な処置をする。

※修正理由

1-2 項の「アピールプレイ」が、ルール改正により、「9つ」に増え、(9)に「タイプ
ブレークの走者にルール違反があったとき」が新設されたため、そのルール改正に合わせ、修
正を行った。

2022 年版掲載頁→P178 2023 年版掲載頁→P180

さくいん

審判員に**投球や**送球が触れる……………9-2 項 21

※修正理由

該当する9-2 項 21 には、「送球」に関する記述しかないため、ルール本則との整合性を
図るため、「投球や」の部分を削除する。

令和 5 年 2 月 10 日

タイブレーク走者、及びテンポラリーランナーについて（確認事項）

日本ソフトボール協会
審判委員会・記録委員会

【1】タイブレークの二塁走者について

Q 1 アピールプレイの対象になる時はいつか？

A 1-1 投球動作に入った時

もし、先頭打者が初球を本塁打した場合、アピール権がなくなってしまうが、それでも良いか？

A 1-2 間違ったランナーはもはや塁にいないため、アピールはできない。投球が行われるか、得点が入るまでは、走者は正式にはゲームに参加しません。
本塁打の場合、二塁に置かれた走者が誰であるかは、本塁打に関与していないので、実際には問題ではありません。

Q 2 アピールの対象となる走者は誰か（誰がアウトになるのか）？

A 2 正規の走者がアウトになる

Q 3 アピールアウトになった走者はどうなる？

A 3 アピールアウトだが失格選手とはならない

Q 4 アピール権が消滅するのはいつか？

A 4 二塁走者が本塁を踏んだ時

Q 5 アピールアウト後の再開はどうなるのか？

A 5 一死、走者無しで再開する

Q 6 違反に気づかず、打者が安打等で出塁した後（例えば一・三塁）アピールされた場合、どうなるのか？

A 6 正規の走者をアピールアウト。一死、走者一塁でプレイを再開する

Q 7 違反に気づかず、二塁走者が盗塁を企てて三塁でタッチアウトになった場合、走者がいなくなるのでアピール権は消滅するのか？

A 7 アピール権は消滅し、一死走者無しでプレイを再開する

Q 8 違反に気づかないまま、打者がホームランを打ったとき。

A 8 走者がいなくなるのでアピール権は消滅する

Q 9 タイブレーク走者の違反は、打順誤りと同様、打撃完了時の打者に対して次の投球動作に入る前にアピールされた場合、打撃結果（安打や四死球）による出塁したために進塁を余儀なくされた走者の得点はすべて取り消されるのか？

A 9-1 取り消されない

※アピールはアウトになった誤ったランナーのみに対して有効。プレイの結果はそのまま

また、違反発見前のアウトは取り消さないのか？

A 9-2 取り消されない

【2】テンポラリーランナーについて

《注》2023 ルールでペナルティは適用しない

Q 1 0 8番打者の投手がアウトで2死。9番の捕手が出塁した場合のテンポラリーランナーは？

A 1 0-1 8番の投手をテンポラリーランナーとしても良いし、7番打者をテンポラリーランナーとしても良い

また、8番打者の捕手がアウトで2死。9番の投手が出塁した場合のテンポラリーランナーは？

A 1 0-2 7番打者がテンポラリーランナー

Q 1 1 2死。8番打者の投手、9番打者の捕手、それぞれが塁上にいる状況（例えば走者1・2塁）で、2人同時にテンポラリーランナーを通告した場合はどうなるか？

A 1 1 8番投手に代わり、7番打者がテンポラリーランナー。9番捕手に代わり、6番打者がテンポラリーランナー

又は、

8番投手に代わり、6番打者がテンポラリーランナー。9番捕手に代わり、7番打者がテンポラリーランナー

以上、どちらでも良い

※同時通告の場合は、チームがどちらのランナーを先にTRにするか決める
ことができる

Q 1 2 上と同じ状況（走者1・2塁）で、先に一塁走者（9番・捕手）にテンポラリーランナーを通告し、1球を投げた後、二塁走者（8番・投手）にテンポラリーランナーを通告して来た場合はどうなるか？

A 1 2 8番投手に代わり、6番打者がテンポラリーランナー。9番捕手に代わり、7番打者がテンポラリーランナーとなる

※攻撃チームがそのように決定したのであればそれでよい

ただし、一旦、決定されたTRをその後に入れ替えることはできない

Q 1 3 1番打者Aはアウトで1死。2番打者B（投手）が出塁後、3番打者Cがアウトとなつたので一塁走者（2番打者）にテンポラリーランナーCが入つた。続く4番打者D（捕手）は四球で出塁したため1・2塁となり、一塁走者（4番打者）にテンポラリーランナーAが入つた。通告した順でテンポラリーランナーとなつたが、二塁走者Cと一塁走者Aを入れ替える必要があるか？

A 1 3 入れ替える必要はない

一旦、TRとなつた走者は固定され、入れ替えることはできない

Q 1 4 F P（投手または捕手）が打撃を兼務した状態で出塁した後、または走者として兼務した後、二死となればテンポラリーランナーを採用できるか？

A 1 4 採用できる

2023「競技者必携」修正点(審判の部)

- ① 打順表提出時に、DPは記載しておかなければならない。
DPがFPの守備を兼務する場合、打順表の最終確認終了後であれば、プレイボール宣告前であっても、その交代は認められる。(この交代はスターティングプレイヤーの変更ではなく、通常の選手交代と同様に扱う。DPが守備を兼務したFPは、いったん試合から退いたことになり、次に試合に出場するときは「再出場」となる)
- ② 兼務しているときの交代は、申し出がなければ「兼務のままの交代」として扱う。
- (注) 兼務を解く場合は、通告が必要である。

不正交代・無通告交代・再出場違反とDP(指名選手)違反

無通告交代 (代替プレイヤー違反)	再出場違反 (代替プレイヤー違反)	DP違反
----------------------	----------------------	------

投手が打者に対して次の投球動作に入ったときに不正交代となる。

- | | | |
|---|--|-----------------------|
| ○違反者は試合から除外。(失格選手となる)
○試合が進行していても違反チームから申し出たらペナルティはない。 | ○監督と違反者は退場。(高校生以下は違反者のみ退場となる)
○違反者は正しい交代者と交代する。
○相手チームから審判員にアピールがあったときにペナルティを適用する。
○アピール権は当該プレイヤーが交代するまで消滅しない。
○守備中・攻撃中でもアピールはできる。 | ○違反者は試合から除外。(失格選手となる) |
|---|--|-----------------------|

P40

(5) テンポラリーランナー

投手・捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、**投手・捕手**が出塁し、走者となったとき、**投手・捕手**の代わりにテンポラリーランナーを使用することができます。

(注1) テンポラリーランナーが出血した場合、代替プレイヤーを使用す

「捕手」だけでなく「投手」もテンポラリーランナーの対象になった

「捕手」だけでなく「投手」もテンポラリーランナーの対象になった

P41

ることはできない。

(注2) テンポラリーランナーを使用した場合、テンポラリーランナーが負傷しても再び投手・捕手を走者に戻すことはできない。

(注3) (注1) (注2) のような場合、テンポラリーランナーを交代させるには、正しい控え選手と交代させなければならない。

(6) 代替プレイヤー

代替プレイヤーの途中での交代はできないが、次のイニングの終了までに代替プレイヤーが交代したときは、正規の交代となる。

(7) 再出場するプレイヤーについては、審判員が元の打順に入ることを確認する。

(8) 守備位置の変更を通告しなかった監督には、厳重注意する。

(注) 攻撃中に守備位置の変更を通告することはできない。

(9) 退場について

ア. 守備者が退場になれば、正しい交代者と交代する。

イ. アウトにならない打者・打者走者・走者が退場になれば、正しい交代者と交代する。

ウ. 監督が退場になれば、その試合の残りを引き継ぐ監督の氏名を審判員に提出しなければならない。

P41 6. 試合と打ち合わせについて

2023新設

試合のスピードアップのため

(1) 試合は、スピーディーに行われるよう努力する。

ア. プレイヤーの攻守交代は駆け足で行うよう指導する。

イ. 試合中、内野手間の送球が長くならないように注意する。

日没まで、短時間しかないときは、やめさせてもよい。

ウ. タイムは1分間以内とする。また、不必要と判断したタイムは認めなくてよい。

エ. 選手間の打ち合わせは1イニング1回とするよう指導する。

(2) タイブレークに際し、攻撃を始めるときの第1打者・二塁走者については、審判員が指導してもよい。

なお、代打者・代走者との交代は認められる。

(3) 審判員は試合が終了したとき、“集合”のコールをしない。

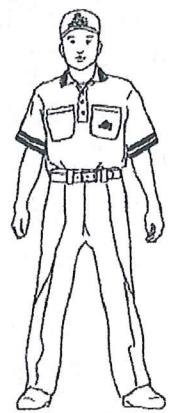
タイブレークの走者にルール違反があった場合(本来タイブレークの走者となるべき選手が走者として出場しなかった場合は、本年度のルール改正で「アピールフレイの対象」となったが、ペナルティを与えることが目的ではなく、無用な混乱を避けるため、ルール改正初年度は、あえてこの一文を残し、「指導してもよい」とこととした)。

6. 審判実務のために

1. 審判員の服装および用具

(1) 審判員の服装

- ・墨審の審判帽は、ひさしの長いものを着用する。
- ・目を保護するために審判員は、サングラスを使用してもよい。
- ・感染症等の予防のために審判員は、フェイスマスク等を使用してもよい。



球審

墨審

審判員の服装は
礼服である

(2) 用 具

インディケーター、バットゲージ、ハケ、ボールバッグ、プロテクター、レガーズ、コイン、スロートガード付きマスク、カップ

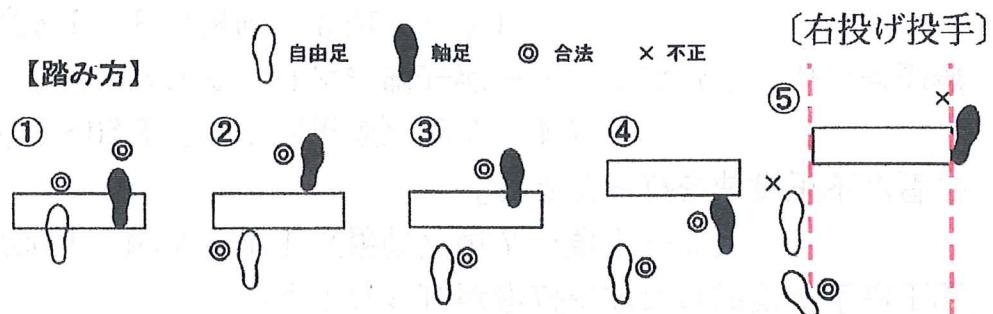
※プロテクター等の着用は事故防止のためである。必ず着用すること。マスク、プロテクターなどの必需品は個人用として揃えたい。

7. 監督の選択権について

- (1) 野手が不正用具でプレイしたとき。
(3-3項〈効果〉3項、P38)
- (2) 再出場違反したプレイヤーが守備でプレイをしたとき。
(4-6項3〈効果〉3、P49)
- (3) 無通告交代をしたプレイヤーが守備でプレイをしたとき。
(4-7項〈効果〉7項、P50~51)
- (4) 打者が不正投球を打ったとき。
(6-1項~7項〈効果〉1項~7項、P66)
- (5) 不正投手が投球した球を打者が打ったとき。
(6-12項〈効果〉12項、P69)
- (6) 捕手や他の野手が打撃妨害をしたとき。
(8-1項4〈効果〉4、P81~82)

ルールの条文を修正(実際の適用に合わせた)したこととに伴い、同様の文言に修正した

10. 投手板の踏み方・踏み出し方



図①、②のように、軸足、自由足とも、両足が投手板に触れているか、図③、④のように軸足を投手板に触れながら、自由足が投手板から離れていても不正投球にはならない。また、一連の投球動作で自由足の踵の位置が投球開始時と変わらなければ、自由足のつま先が浮いても、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

図④のように軸足のつま先が投手板に触れながら、自由足を後方に置き、正しくセットしており、一連の投球動作の中で軸足の踵の位置が投球開始時と変わらなければ、軸足のつま先が浮いても、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

図⑤のように軸足が投手板の側面だけに触れている場合は投手板に触れているとはみなさない。また、自由足を投手板の後方に置く場合は、投手板の両端の後方延長線内に置かなければならない。(延長線上は延長線内である)

【踏み出し方】

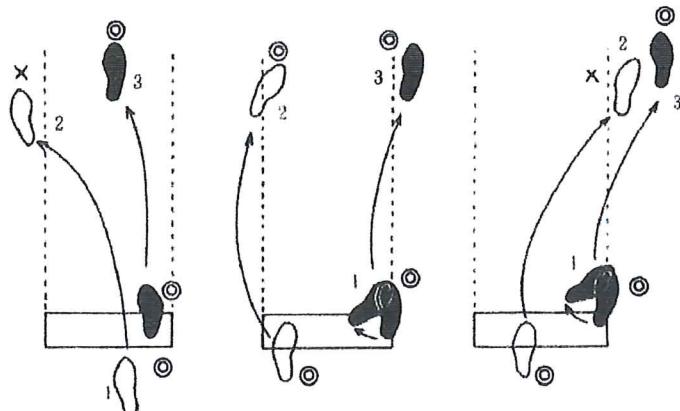


図3のように軸足の踵が一連の投球動作の中で投手板から離れても、つま先の位置が投球開始時と変わっていなければ(つま先が前方に移動していないければ)、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

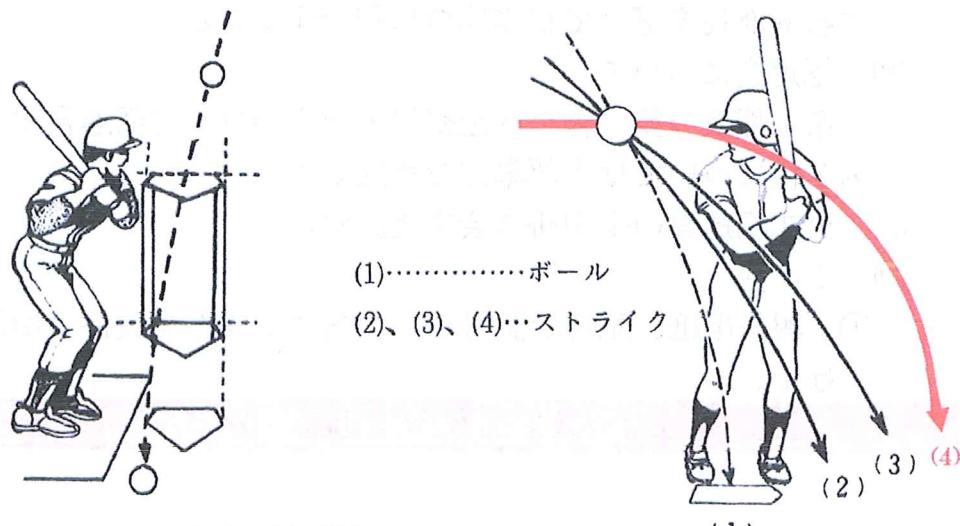
2. スローピッチ・ストライクゾーン

スローピッチ・ソフトボールのストライクは、次の条件を満たすものである。

- (1) 投手の手から球が離れて本塁に達するまでの間、地面から3m以下、1.5m以上の空間をアーチを描かなければならない。
- (2) 下手投げで、適當なスピードであること。
- (3) ストライクは、本塁を通過したときに判定される。
- (4) 投球は、本塁の上方空間で、打者が自然な打撃姿勢をとっているときの、打者の捕手側の肩（バックショルダー）から、両膝の本塁上の空間を通過しなければならない。

打者が、打者席内のどこに位置するかは、ストライクゾーンには関係ない。

ストライクゾーンは、あくまでも本塁の上方空間であり、これと打者が自然な打撃姿勢に入るときの打者の捕手側の肩、膝の位置がストライクゾーンを決める要素である。



ストライクとなるためには、正しく投げられた投球が、このゾーンを通過しなければならない。

2023「競技者必携」修正点(記録の部)

P137

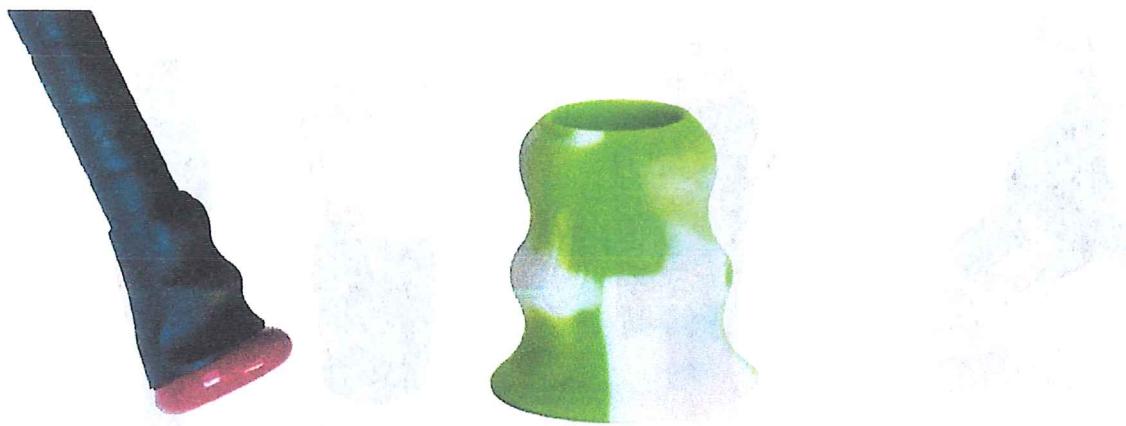
3. 公式記録員手引

- (14) 記録に従事する人は、常にベストな状態で任務の遂行ができるよう摂生に努めること。
- (15) 公式記録員は常に服装を正し、言動に注意を払い、品位を保つよう心掛けること。
- (6) 公式記録員は記録業務時、次の服装と用具を調えること
- ① 服装について
- (ア) 動きやすい服装(ズボンはジーンズを除く)とする。シャツは白で襟付きが望ましい。また、スコアカード記帳時は帽子(サンバイザー)を着用する。
- (イ) 帽子は記録委員会が定めたものとする。
- ② 用具について
- スコアカード、鉛筆またはシャープペンシル(B~2B)、消しゴム、定規、時計、『ルールブック』、『競技者必携』、『スコアリングマニュアル』など。
- (7) 登録について
- 公式記録員は、公式記録員規程第6条により、毎年4月までに各支部長を通じて日本協会に登録すること。
- (8) 認定会について
- 第1種及び第2種公式記録員の認定会は、支部連合単位で、第3種については支部単位で実施する。
- (9) 公式記録員の全国研修会を実施する。
- (10) その他
- ① 報告用紙、記録の記号等は、各ブロック委員長の指示を受ける。

(6)の赤枠部分を修正し、①(ウ)を削除

Grip-N-Rip 等グリップエンド装着物

公式戦での使用不可



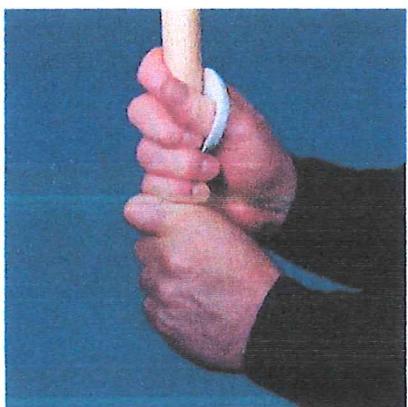
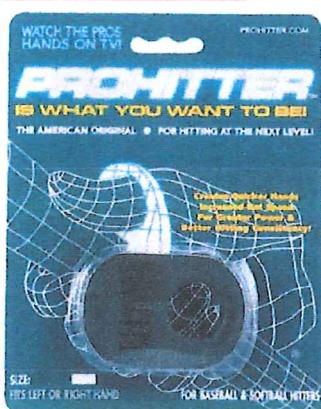
ウィップストリップ等グリップ補助用具

公式戦での使用不可



プロヒッター、ヒットパッチ等バッティング補助用具

公式戦での使用不可



リストガード（親指に掛けるモデル）等保護用具

公式戦での使用可



リストガード（親指に掛けないモデル）等保護用具

公式戦での使用可



リストガード一体型バッティンググローブ等保護用具

公式戦での使用可



周知徹底願い

大会で利用出来ない用具について日本ソフトボール協会より通知がありました。

各連盟、チーム、選手内で周知徹底をお願い致します。

審判員がしてはいけないこと

1. 判定を早くしすぎる。
(特にアウトとファウルボールはじっくり見て確認してから判定を)
2. 勝手な応用動作で判定する。
(起こったことの結果について、あくまでも基本動作に忠実な動作で判定)
3. 自分の行った判定や行為について言い訳をする。
(明快に判定し、毅然とした態度であってほしい)
4. 会場内を歩き回る。
(審判員は自分の担当する試合の時以外、自分の持ち場は離れない)
5. チーム関係者と話をする。
(自分は審判員であるという自覚が必要)
6. プレイヤーに命令口調で話す。
(ともに試合を行う仲間であり、威圧的・高圧的に言うのではなく、「～しましょう」と柔らかく言う。)
7. 他の審判員の批判をする。
(意欲的になり、1つでも他の審判員の良いところに学ぼう)
8. 気取ったり高慢な態度をとる。
(監督が何か言っていたら全てをよく聞き、途中で話を絶たない)
9. 決められた時間に遅れる。
(選手に時間を厳しく言う手前、断じて遅れてはならない。)
10. だらしない服装や汚れた服装をしている。
(審判服は礼服であることを忘れては何らない。試合が終われば着替える)
11. 試合中は、ゆっくり歩いたり腕組みをする。
(グラウンドでは、3歩以上は走り、スピーディな動きをしよう。)
12. 生半可なルールの理解は大きな過ちを引き起こす。
(暇があればルールブックを読み、ルールに精通している。)
13. 抗議があつたら何でも答える。
(抗議のできることとできないことを、しっかりと掘んでおきたい。)
14. ボールまたは走者から目をそらす。
(ボール又は走者に背を向けていると起こった事柄が判らない。)

ルールについての補足説明

1. 投球動作に入る前のセット・・・2秒ルールはしっかり見よう。
2. 試合中や試合前後にDP制の質問をしていても答えない。
3. 球場での投球練習は1組・・・捕手には必ずマスク・ヘルメットを付けさせる。
4. 投手がボールの交換を言ってきても傷や変形以外は応じない。
5. ファウルボールは場外に出す。
6. 無通告交代については、アピール権が試合終了まであるので注意したい。
7. 打者走者のスリーフットレーンの意味を理解しよう。

「走路・送球ラインに入らない」

7. 勝手な応用動作「ゼスチャー」で判定する。
 - ・起こったことの結果について、あくまでも基本動作に忠実な動作で判定する。
8. プレイヤーに命令口調で話す。
 - ・ともに試合をする仲間であり、威圧的・高圧的に言うのではなく、「～しましょう」と柔らかく言う「特に高校生以下は」
9. 気取ったり高慢な態度をとる。
 - ・監督が何か言つたら全てよく聞き、途中で話を絶たない。
10. 試合中、ゆっくり歩いたり腕組みをする。
 - ・グラウンドでは、3歩以上は走り、スピーディな動きをしよう。
11. 抗議があつても、必要な事しか答えない。
 - ・抗議のできることとできないことを、しっかり掴んでおきたい。

(試合後)

1. 他の審判員の批評をする。
 - ・意欲的になり、1つでも他の審判員の良いところに学ぼう。
2. 自分の行った判定や行為について、言い訳をしない。
 - ・明快に判定し、毅然とした態度であつてほしい。

「審判員は、でた結果を正しく判定する。」

「基本動作を大切に！基本動作に忠実に！」

審判員の心構え（やってはいけないこと）

（共通項目・球場内外）

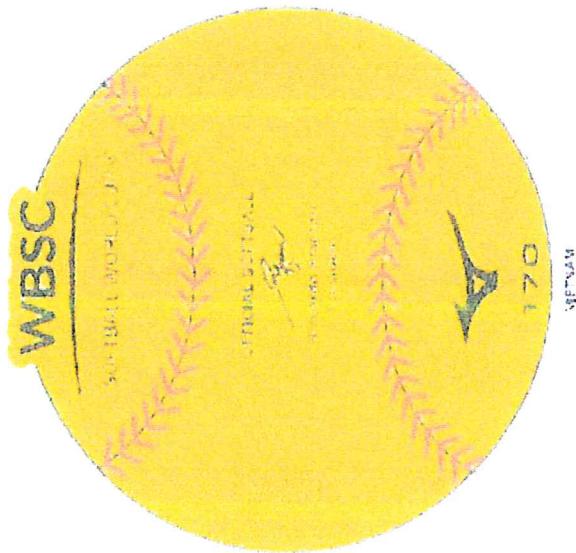
1. 時間を正確に守ること。5分前の精神。
 - ・決められた時間に遅れる。
 - ・選手に時間を厳しく言う手前、断じて遅れてはならない。
2. 感じの良い制服を身に着け、常に好ましい印象を与えること。
 - ・だらしない服装や汚れた服装・靴を履いている。
 - ・審判服は礼服であることを忘れてはならない。試合が終われば着替える。
3. 常に初心に帰り、規則をよく読み、基本動作の確認・点検に努める。
 - ・生半可なルールの理解は大きな過ちを引き起こす。
 - ・暇があればルールブックを読みルールに精通している。
4. チーム関係者と話をしたりして、誤解をまねくようなことのないよう配慮する。
 - ・自分は審判員であるという自覚が必要。
5. 会場内を歩き回る。
 - ・審判員は自分の担当する試合のとき以外、自分の持ち場は離れない。

（試合中）

1. 動きと判定位置
 - ・位置取りのために、球・野手・走者をみていない。
 - ・最も適している位置に素早く動く。「自分の墨を捨てる」「一步目が遅い・球の行方を追いすぎ」
 - ・止まる・見る。
2. プレイを自分の判断で予測している。
 - ・動きが怠慢になっている。全力で走っていない。・・・判定位置の半分も行っていない。
 - ・見るべきところから、目を切ってしまう。・・・打球を見ている。
 - ・逆の判定をしている。（プレイの結果を予測している。）
3. 判定をしなければならないのに、判定しない。
 - ・守備妨害・走墨妨害発生時。ボールデットかディレードか。
 - ・不正投球・打撃妨害・球審の捕手への妨害・離墨アウト。
 - ・球が場外に出る。投球・送球・打球（ボールデット、ツーベース・・・）
(中途半端なゼスチャーを出さない)
4. 正しく判定する。（見たままに基づいて、コールとゼスチャーで
 - ・自分が見えてないのに「見てない」、判定をする。
 - 「流す。野手・走者の様子を見る。一段落して助言を求める。」
 - ・判定は早くしない。「我慢する」
 - 「特にアウト。セーフ・捕球・触球はじっくり見て確認してから判定をする。」
5. 球・走者から目をそらす。
 - ・球・走者に背を向けていると、起こった事柄が判らない。
 - ・一段落しても・定位位置に戻るときでも、球・走者から目を切らない。
 - ・墨に送球されてくるとき、球が野手の手を離れるまで見ている。
6. 守備・走者の邪魔をする。
 - ・中に入ろうとして・中に入つて邪魔をする。

最終デザイン

▽WBSC用ボール MIZUNO170



▽JSAマーク 1BJBS17000
MIZUNO170

